クリアファイ™くもり止めシステムに対する当院での評価

杏林大学医学部付属病院　臨床工学室

野澤 隆志

内視鏡外科手術においてクリアな視野の確保は重要な課題である。当院の消化器外科では2016年よりコヴィディエン社製のクリアファイ™くもり止めシステム（以下：CF）を導入したので、CFについて評価した。

CFはスコープウォーマーとトロッカー及びレンズ清掃具を兼ね備えたディスポーザブルの曇り止め装置である。内蔵電池により界面活性剤の温度を約36.7℃～60℃の間に保っているため、スコープを差し込むだけでレンズへの界面活性剤の塗布と同時にスコープの加温も可能であり、作業効率の良さがメリットである。CF導入前は滅菌した電気ポットで蒸留水を沸騰させスコープを加温後、レンズクリーナーを塗布していた。コードの引っ掛かりによるポット転倒により医師や看護師が熱傷を受傷することが6年間で3－4件発生していたが、コードレスのCFの導入以来事故は発生していない。

CFのデメリットは、従来スコープ清掃に用いていたポットの滅菌費用が約130円、蒸留水500mlが145円、レンズクリーナーが600円と安価であったのに比べ、CFは定価9000円と高価な点である。しかし、通常手術中に十数回のスコープ清掃の機会があり、曇り止めの塗布が不十分で1回のスコープ清掃で何回も拭き直す局面と手術時間への影響も考慮すると、複雑な手技を要する症例においてCFの使用は許容できる。